

# トマト低段密植栽培で

## 大規模施設を夫婦で栽培可能に

東近江農業農村振興事務所農産普及課

### 【普及活動のねらい・対象】

東近江市のA氏は、夫婦2人で温室2,100㎡を活用し、半促成+抑制のトマト専作経営を行っていましたが、平成23年度から同団地の遊休温室1,400㎡を新たに借り受け、3,500㎡の規模となりました。しかし、栽培管理が追いつかず労働力不足の状況です。

併せて、近年の重油価格高騰により暖房コストの増加が経営を圧迫し、そのコスト削減が急務になっていました。

そこで、収益性を高めつつ、規模と労力に見合った省力化、そして、暖房コストの削減を目的に、低段密植栽培技術と加温・無加温栽培を組み合わせた技術体系の確立に取り組みました。



低段密植トマト栽培の生育

### 【普及活動の内容】

半促成栽培では、加温栽培1,400㎡と無加温栽培2,100㎡を組み合わせ、株間を慣行の40cmから28cmにし、収穫段数を9果房から4果房にする「低段密植栽培」に変更しました。このことにより、茎の吊り下ろしや脇芽かきの作業が大幅に省略でき、暖房面積も6割削減できました。

抑制栽培でも加温面積や収穫段位・株間を半促成栽培と同様にし、7月25日と8月25日に定植を行いました。また、抑制栽培では生育初期に加温の必要がないことから、セル苗を用いた2本仕立てとし、育苗コストの削減にも取り組みました。なお、夏の異常高温・乾燥により収穫期が、一か月程度遅れた他、黄化葉巻病も一部発生しましたが、当課の指導に迅速に対応していただいたことで、被害を最少限に抑えることができました。

### 【普及活動の成果】

低段密植技術と加温栽培・無加温栽培を組み合わせることで、施設面積3,500㎡のトマト栽培が夫婦2人でも、収穫作業は忙しくなるものの、作業が大幅に省力でき、管理が行き届きました。その結果、出荷量は半促成栽培で23t、抑制栽培で17tの合計40tとなり前年よりも5t増加しました。また、暖房コストも前年よりも90万円削減でき、収益は大幅に向上しました。



収穫作業に励むA氏夫婦